

* 関 勝 則 「時代を映した横浜の歌」 探訪。

《10》 フランク永井の「夜霧の第二国道」

昭和32年に生まれたフランク永井の「夜霧の第二国道」歌詞に横浜の地名が出てきませんが、この曲を「横浜の歌」とすることについては、認めざるを得ないと思います。

「第二国道」とは、横浜と東京を結ぶ「京浜第二国道」です。昭和11年、京浜国道（現国道15号線）が飽和状態になったのを受けて着工。工事は部分的に進みますが戦争によって中断。戦後進駐軍の命令によって急ピッチで工事が進み、昭和24年に軍需道路として完成しました。完全舗装されたのは昭和29年でした。その後国道1号だった京浜第一国道が国道15号に、国道36号だった第二京浜国道が国道1号になりました。

当時はダットサン、クラウンなど戦後初の国産乗用車が発売されていましたが、市民にとっては高根の花。後にやって来るマイカーブームの先駆けとしてこの曲は大ヒットしました。作詞は宮川哲夫、作曲が吉田正。「♪バックミラーに あの娘の顔が 浮かぶ夜霧の ああ第二国道」という歌詞は、横浜の女性と別れて京浜第二国道を走るという設定で作られたと伝えられています。

進駐軍で歌うジャズ歌手を経てムード歌謡曲歌手としてデビューしたフランク永井は低音の魅力で一世を風靡。

作曲の吉田正とはこの曲の前の「東京午前三時」から歌手と作曲家としてコンビを組むことになったそうですが、吉田正は、この曲の構想を練る際にフランク永井が運転する車で横浜のナイトクラブに何回も向かったというエピソードも紹介しています。

フランク永井はこの「東京午前三時」「夜霧の第二国道」「有楽町で逢いましょう」の大ヒットで一躍トップスターになりましたが、この2曲よりも前に「13800円」という曲を世に出しています。この曲は当時の男子の平均初任給をそのままタイトルにして歌ったもの。「♪嫁を貰おか 13,800円 ぜいたく云わなきや ぜいたく云わなきや 食えるじゃないか」と当時の世相が窺えます。

第二京浜国道は昭和15年に開催予定であった東京オリンピックのマラソンコースとして想定されており、鶴見区の東寺尾北台、東寺尾仲台、北寺尾、東寺尾の境界に架かる「響橋」、通称「めがね橋」が折り返し地点のランドマークとなる予定だったといわれています。



30年度予算案に対する代表質疑 (2)

前号に引き続き、新年度予算に対する質疑について。

新たな中期計画

質 問 横浜市の人口は平成31年をピークに減少する見込みで、未来を支える若い世代をはじめとした人口流入への取組は大変重要。市長は、新たな中期計画で駅周辺の整備や住宅地の団地再生など通じ、新たな雇用や魅力ある住環境を創出し、若い世代に選ばれるまちづくりを進めていくとしているが、市への近年の転出入の動向と今後の対応について。

政策局長 東京との関係では、平成15年を境に転入超過から転出超過となっている。近年、川崎や相模原市など近隣自治体への転出傾向もある。市外に転出された方への意識調査を行い、その詳細を分析中で、この結果を新たな中期計画に反映させていく。

青少年の地域活動拠点づくり事業

質 問 横浜市が独自に進める、青少年のための地域活動拠点づくり事業の意義は。こども青少年局長 主に中高生世代を対象に、自由に活動し、交流できる居場所を提供し、地域と連携して社会参加プログラムを実施している。様々な体験や他者との交流を通じ、自らの可能性を伸ばし、社会の一員として成長することに繋がると考える。

質 問 思春期の青少年は、悩みや課題を抱えやすい年頃で、大人が積極的に受け止めることが大切。青少年が困難に陥る前の予防として、活動拠点で相談や傾聴事業を行うべき。こども青少年局長 青少年からの相談に対応するためには、幅広い知識や実践力のある人材を確保し、地域とのネットワークづくりが求められる。こうした課題を検討し、すべての拠点で実施していく。

質 問 この事業の今後の展開についてどのように考えているのか。

市長 青少年の地域活動拠点は中高生世代の成長を支える重要な役割を担っている。今後は、拠点の果たす役割と機能の充実を図り、青少年が親しみやすい居場所の設置に努めていく。

YIPORT事業におけるダナン市との都市間交流

質 問 ダナン市（ベトナム）との都市間協力の状況を伺いたい。国際局長 平成25年に都市づくりに関する覚書を交わし両市で都市開発フォーラムを開催してきた。現在は浄水場のポンプ導入やごみの分別モデル事業を開始している。また、経済交流を進める中でダナン市が横浜市内に事務所を開設した。

質 問 ダナン市との連携推進に向けた展望を伺いたい。

市長 ダナン市長から公民連携による技術協力を大いに期待しているとの話をいただいた。引き続き、市内企業と連携した都市づくりに協力しつつ、新たに介護人材確保に向けた取組みを進める。

【YIPORT事業】横浜市が推進している公民連携による国際技術協力事業で、新興国の都市課題の解決と市内企業のビジネス機会の創出を目的とする。